# 学長就任にあたって

広島大学長　原　田　康　夫

このたび本学の学長就任にあたり、責任の重大さをひしひしと身に感じています。皆様方の御期待に応えられるよう、最善の努力を尽くしたいと思っています。

初代の森戸学長の開学当初からの理念を基本とし、歴代学長が推進してこられた開学の精神を継承・発展させ、学生に魅力ある大学づくりを目指すとともに、世界的に認められる大学にしたいと思います。最近の学術の急速な進展と社会の多様化に対応できる教育・研究の場として、広島大学をより国際性に富み、地域社会に開かれた大学、高度情報化社会に対応できる情報の発信・受信基地となり得る大学、生涯学習に対応できる大学として整備・充実したいと思っています。

当面の主要課題としては、次の事柄が掲げられます。

一　東広島市への統合移転

学部の移転を平成七年三月までに完了させることが最重要課題であります。

二　学部教育の整備

平成四年五月十九日評議会決定「教育研究の整備と改善について（大綱）」に基づき、教職員の英知を結集してカリキュラムを時代のニーズにあったものとし、教養・専門のバランスのとれた知識を有し、人間性に富み創造性豊かな学生を育てます。

三　大学院の整備充実

平成四年十二月一日評議会決定「広島大学大学院の整備充実について（基本方針）」に基づき、境界領域的・萌芽的な研究を支援する体制を確立するとともに高度の専門性を持つ人材を育てるために大学院研究科の整備充実を図る必要があります。すなわち、現有の大学院研究科の整備充実を図るとともに、時代に合った形の新しい概念での大学院研究科の整備充実が必要であります。

四　大学と地域社会との連携の促進

東広島市との間に学園都市づくり交流会議が設置されています。これを大いに活用し、関係者が知恵を出し合い、東広島市を学生の住みやすい町になるように行政並びに市民の皆さんに御協力をお願いしたいと思います。また、公開講座についても、これを積極的に推進し充実させ、広島大学を地域社会に開かれた大学にいたします。

これらのほかにも広島大学にはいろいろな課題が山積しています。そのいくつかを掲げれば、

一　法学部・経済学部第二部の広島地区への存置

社会人教育の場として大切で、関係当局と折衝します。私としては、東千田キャンパスに何らかの形で広島大学の組織を残したいと考えております。

二　国際交流の促進

諸外国の大学との大学間協定・学部間協定の締結を促進するとともに、協定校との間でより緊密な関係を樹立させます。

三　大学の管理運営の活性化

若手教官の意見を積極的に聴き、学部間の調和ある発展を目指しつつ、大学の基本構想を中・長期的に継続的に検討し、評議会の活性化を図るとともに、評議会レベルの委員会を設置し、大学のより一層の活性化を図ります。

ここに、抱負の一端を述べ、教職員各位並びに学生諸君の積極的な御協力をお願いいたします。